



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 370号 2011.5.12 発行 社会政策研究所

民主党：未成年の医療費軽減 中学生以下1割…改革素案

毎日新聞 2011年5月12日

政府の税と社会保障の一体改革に関し、民主党の「社会保障と税の抜本改革調査会」（会長・仙谷由人官房副長官）がまとめた医療・介護制度改革素案の全容が11日、明らかになった。現役・高齢世代の負担を公平に近づけるため、中学生以下の医療費の窓口負担割合を1割とするなど、原則2～3割の未成年の負担軽減を図る。また支払額に上限を設けている高額療養費制度を、難病患者ら長期療養者向けに拡充する方針を打ち出し、財源として一般外来患者の窓口負担に一定額を上乗せする「受診時定額負担制度」の導入も検討するとしている。

民主党は素案を近く政府の「社会保障改革に関する集中検討会議」（議長・菅直人首相）に提案する。同会議が5月末にまとめる社会保障改革案に反映させることを目指す。

素案では、高齢者に偏りがちとされる社会保障給付に関し、「若者や現役世代に過度に依存する状態から脱却しなければならない」と指摘している。具体的には医療費の自己負担割合（現行は原則▽0歳～小学校就学前2割▽小学生～69歳3割▽70～74歳2割▽75歳以上1割）の見直しを明記し、中学生以下を1割、20歳未満は2割へ引き下げる一方、軽減措置によって1割に抑えている70～74歳は、本来の2割に戻すと例示している。

世帯単位の支払額を抑えるため、医療・介護や子育て費用の合計額に上限を設ける仕組みも検討する。医療費の窓口負担が上限を超えた場合、企業の健康保険組合などから上限超過分の払い戻しを受ける高額療養費制度については、長期療養が必要な患者への払戻額を増やす案などを検討する。

外来の窓口負担に一定額を加算する制度をセットで導入し、財源とする。上乗せ額は一律100円程度を想定している。

介護保険制度では、40歳未満にも保険料負担を求めることを検討する。また、市町村の国民健康保険への加入が多い非正規労働者にも、被用者保険を適用することも盛り込んだ。【山田夢留】

◇民主の医療・介護改革素案（要旨）

1＜改革の必要性＞

我が国の「皆保険」は将来にわたって維持しなければならないが、その土台が揺らぎ始めている。国民全体が医療や介護の実態を正しく理解し、過剰サービスは享受せず、若者や現役世代に過度に依存する状態から脱却しなければならない

2＜改革の方向性＞

1、精神科医療、予防医療など（自公政権時代の）社会保障国民会議で検討が不十分と思われる項目について、2025年を見据えた検討を加える

2、地域に必要な医療・介護従事者の確保と調整のスキームを検討する

3、包括的な医療・介護連携のための機能分化とネットワーク構築を進める

4、5 (略)

3 <具体的内容>

- ▽比較的高額で長期にわたる療養を必要とする場合、保険者の機能として負担軽減策を講じる。この機能を高めるため、受診時定額負担制度の導入についても検討を加える
- ▽給付費に占める税の負担割合を高める方策を検討する
- ▽医療保険の自己負担割合の見直しを検討する。例えば、義務教育終了まで1割、20歳未満2割、20～69歳3割、70～74歳2割、75歳以上1割等
- ▽医療・介護の自己負担を含め、社会保障負担の世帯合算に上限を設ける
- ▽介護施設における給付の公平化を図るとともに、介護保険の2号被保険者の年齢を引き下げること検討する
- ▽長く健康を保った場合、保険料上のインセンティブを考慮する

ダウン症児が連ドラ出演 脚本家「ありのままの姿を」

朝日新聞 2011年5月12日

堀北真希さん(背中)にソフトクリームを差し出す演技をする高井萌生君＝横浜市青葉区で

知的障害のある子どもたちを芸能界に送り出そうと、タレント事務所が3年前に設けた障害児専門クラスから今春、初の連続ドラマ出演者が決まった。障害者が演じるのが当たり前になることを目指した試みの、大きな一歩になる。

出演するのは、企画会社「ケイブランニング」(東京都渋谷区)が運営する知的障害児専門の「芸能部子どもSPクラス」に所属し、オーディションで選ばれたダ



ウン症児の高井萌生(ほうせい)君(10)。20日に放送予定のTBS系「生まれる。」(毎週金曜夜10時)の第5話に、中心人物として登場する。堀北真希さんと遊ぶダウン症の子ども役だ。

ドキュメンタリーにダウン症の子どもが出ることはあるが、役者として出演する例はまれ。母の由佳さん(36)は「歌ったり踊ったりするのが大好きな子。元気で、楽しいところをみてほしい」と話す。

9日に横浜市内であったロケ。人なつっこい性格の高井君は、撮影現場の人気者だ。堀北さんにソフトクリームを差し出したり、「あっちむいてほい」で遊んだり。監督がオーケーを出すまで7回撮り直すこともあったが、最後までやりきった。

「生まれる。」は51歳の妊娠をテーマにした社会派ドラマ。この回は妊婦役の田中美佐子さんが、胎児の染色体異常などを調べる羊水検査を受けるかどうか悩む。堀北さん演じる長女は高井君と遊んだ楽しい1日を振り返り、母に検査を勧めたことを後悔する。

脚本の鈴木おさむさんは「家族の葛藤を真正面から描きたかった。障がい演じてもらうより、ダウン症児のありのままの可愛い姿をみてほしかった」。

「やっとここまで来た」。2008年5月にSPクラスを立ち上げた国枝秀美社長は喜ぶ。「障がいへの理解が進まないのはメディアへの露出が少ないためでは」と考え、欧米のように障害者がテレビや映画に出るのが当たり前の社会を目指した。

現在、幼児から30代までの約80人が、歌や演技などのレッスンに励んでいる。「子どもたちは注目されればされるほど実力を発揮する。今回の出演を弾みにしたい」(丸山玄則)

河野さん 8年かけ研究書

左足の指にはさんだペンでパソコンのキーボードをたたいて
研究書をまとめた河野さん（大阪市阿倍野区の自宅で）

重度の脳性マヒで体が不自由な大阪市阿倍野区の河野勝行さん（66）が、全国に先駆けて大阪が障害児教育に力を入れてきたことを示す歴史資料を分析した研究書「肢体不自由教育の出発」を8年がかりで完成させた。河野さんは、1956年に全国初の公立の肢体不自由養護学校として設立された府立養護学校（現・府立堺支援学校）の1期生で、同校誕生の経緯を調べる中で発見した様々な事実と意義を同書に盛り込んだ。河野さんは「大阪の障害児教育の重要な一面を知ってほしい」と話している。（原田和幸）



河野さんは子どもの頃から歴史に興味があり、「新三国志」や「真田十勇士」などの小説に親しんだ。高等部3年の時、熱心に勉強する姿に感心した同校教諭の紹介で、大阪市内で開かれていた古代史の研究会に通い始めた。同校卒業後、研究会のメンバーだった大阪市立大の直木孝次郎・助教授（現・名誉教授）の研究室に通い、80年には、5年かけて佛教大文学部（京都市）の通信教育部を卒業。論文やリポートは、頭の中で組み立てた原稿を読み上げ、他の学生に記録してもらっていたという。

障害者の歴史についても関心を深め、8年前、出身校の成り立ちなどを説明する関連文献を読み、大阪の近現代における障害児教育の研究に没頭。わずかに動く左足の指にはさんだペンでパソコンのキーボードをたたき、調べた内容を原稿用紙1200枚にまとめ上げた。

江戸時代の大阪では寺子屋75校中7校が障害児を受け入れていたとされ、河野さんが関連文献を調べたところ、大阪で活躍した浄瑠璃作家・竹田出雲の作品に寺子屋での障害児の克明な描写があることがわかった。この描写からは、障害児と健常児が共に学ぶ姿が当時の市民にも知られていたことがうかがわれるという。

また、大正時代、大阪の学校には当時としては全国的に珍しい病弱・虚弱児の特別学級が複数あったことから、子どもたちの健康状態が他の地域と比べて悪かった可能性があるという。「このことが結果として障害児教育の発展につながったのでは」と推測している。その後、肢体の不自由な児童を受け入れる学校を建設する動きがあったが、戦時体制の中で実現しなかったことも判明。河野さんは「戦争の激化は障害児にも多くの苦難をもたらした」と指摘している。

河野さんは「研究は生きがい。今後も障害者の歴史を調べ続けていきたい」と話している。研究書は、A4判297ページ。3000円（税込み）。送料は1冊340円。問い合わせは光陽印刷（06・6799・3087）へ。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行